

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫
両団体理事長 半田 晴久
新エネルギー委員長 中島 稔
両団体専務理事 清原 淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第328回)

日時 平成30年12月4日(火) 午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第1会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。また、会議開始後にお越しの方は、受付に「第1会議室に行きたい」旨お伝え下されれば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて思う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、エネルギー白書の解説

解説 資源エネルギー庁長官官房総務課調査広報室
三輪田祐子室長補佐

3、『新エネルギー関連ニュース NO.181』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る11月6日開催の第327回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、中島委員長より、「最近の再生・新エネルギーについて思う」と題して開会挨拶がありました。ガスタービン技術を応用した超小型発電装置を電気自動車に搭載し、航続距離を伸ばす技術を三菱重工が開発。マツダは独自の小型で高出力のロータリーエンジンを開発。これらはマイルドハイブリッドと呼ばれ、電気自動車以上の普及が予想される。また、トヨタは燃料電池車こそが主流と見込んで開発を続けている。電気自動車は膨大な設備投資を要し、電力をつくる際にCO

2を出す一方、燃料電池車はCO2を出さない。製造コストを下げ、購入価格を下げられれば、燃料電池車が電気自動車を凌駕することも不可能ではないはずだ。

次に、清原淳平専務理事より、本日の講師・藤代芳伸産総研無機機能材料研究部門グループ長の経歴紹介がありました。次に、藤代グループ長より、「拡散焼結技術を用いた高効率燃料電池」と題して解説をいただきました。燃料電池の利点は高温で作動するため、燃料を改質なしで利用可能だが、新しいタイプのプロトン伝導型は、より発電作動温度を下げることができ、耐熱材料のコストを削減できる。従来型は燃料極で水が生成され、燃料が薄められてしまうが、新型は空気極で生成されるので、燃料利用率も高まる。伝導性セラミックスの焼成も難しい課題だったが、酸化ニッケルを蒸気化し、その上でセラミックスを焼く拡散焼結法を用いて、より低温で焼成に成功した。これによって、より大型で複雑な形状のセラミックス部材の製造が可能になった。現在は80ミリ角サイズのセル作成に成功した。電解質材料は、燃料電池が作動している環境で電子の漏出が生じるので、これを抑え、より高効率を目指している。現在の目標は70%である。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.180』の解説がありました。今回は、○アメリカでトマトの廃棄物を使った微生物燃料発電を開発。トマトが含む微量栄養素が発電に適しているとのこと。○太陽光など再生可能エネルギーを使って生成した水素由来のアンモニアを燃料とする発電システムの開発。アンモニアを安定させる触媒を新開発。○下水汚泥を、オゾンを使って効率よく発酵させ、メタンガス発電に利用。大都市でしか採算が合わなかったが、目標が達成できれば、人口20万人台の都市でも利用が見込める。○約240社・団体からなる再生可能エネルギーの普及に取り組む組織が日本で活動を広げている。○経産省、太陽光発電の買い取り制度見直しに着手。当初の価格が割高に設定されていたためだが、反発も予想される。○日本国内で23年ぶりの大規模地熱発電所が秋田で来年運用開始予定。○などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円にご協力を。

次回、12月4日(火)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587